

新しい文化を考える
第36回 浜松コンファレンス開催
9月21日（土）から先着順で申し込み受付開始

2019年9月20日
公益財団法人 光科学技術研究振興財団
理事長 晝馬 明

当財団は、最先端の科学技術を紹介し、地域の皆さまと新しい文化について考える「第36回 浜松コンファレンス」を、11月3日（日）文化の日にアクトシティ浜松で開催します。参加申し込みは、9月21日（土）から先着順で受け付けます。

開催にあたり、当財団理事長で浜松ホトニクス株式会社代表取締役社長の晝馬 明が挨拶を行います。また、チェリスト 横坂 源 氏、ピアニスト 多賀谷 祐輔 氏による演奏の後、東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構の前機構長で、同機構の主任研究者・教授、第3代浜松プロフェッサー 村山 斉 氏が「ニュートリノが私たちを救った？」をテーマに講演します。

概要は以下の通りです。

記

<開催概要>

第36回 浜松コンファレンス「新しい文化論」

日 時：11月3日（日）文化の日

開場 13：00 開演 13：30 終演 17：00（予定）

会 場：アクトシティ浜松・中ホール

主 催：公益財団法人 光科学技術研究振興財団

共 催：浜松市

後 援：浜松商工会議所、公益財団法人 浜松・浜名湖ツーリズムビューロー、K-mix、
浜松ホトニクス株式会社

定 員：1,000名（先着順に受け付け、定員となり次第締め切りとさせていただきます）

入 場 料：無料

申し込み方法：光科学技術研究振興財団の Web サイトまたは申し込み専用電話から

URL：<https://www.refost-hq.jp/> TEL：053-458-0008

プログラム：

13：30～ 主催者挨拶

公益財団法人 光科学技術研究振興財団 理事長
浜松ホトニクス株式会社 代表取締役社長
晝馬 明

14：00～ 演奏

チェリスト 横坂 源 氏、ピアニスト 多賀谷 祐輔 氏

15：00～ 講演「ニュートリノが私たちを救った？」

東京大学国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 前機構長
主任研究者・教授、第3代浜松プロフェッサー
村山 斉 氏

<今回の講演内容>

「ニュートリノが私たちを救った？」 村山 斉 (むらやま ひとし)

ニュートリノはお化けのような小さな粒々で、私たちの体をスースー通り抜けていますが、ほとんど反応しないので全く感じません。ですが、梶田教授がニュートリノ振動を発見したため、実は大事な役割を果たしたのではないかと考えられるようになりました。完全消滅の運命にあった我々物質をその危機から救ってくれた、というのです。小柴昌俊、梶田隆章、小林誠、益川敏英、そして南部陽一郎と、日本人ノーベル賞物理学者がからむ壮大な物語。こんなスーパーヒーローのようなニュートリノについてお話しします。

(プロフィール)

東京大学大学院理学系研究科博士課程を修了後、1991年に東北大学助手として勤務、ローレンス・バークレー国立研究所研究員を経て、2000年にはカリフォルニア大学バークレー校教授。その後、2007年から2018年10月までに東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構の機構長を兼務。2018年10月カブリ数物連携宇宙研究機構主任研究者・教授を兼務。2019年4月1日に第3代浜松プロフェッサーに就任。専門は素粒子物理学。主な研究テーマは超対称性理論、ニュートリノ、初期宇宙、加速器実験の現象論など。世界第一線の数学者・理論物理学者・実験物理学者・天文物理学者と協調して宇宙の根源的な研究を進めるとともに、研究成果を社会に還元するため一般向け講演会やメディアを通しての活動を積極的に行い、その分かり易い講義では日本のみならず、今年ニューヨークで開催されたワールド・サイエンス・フェスティバルの講演者として招待されるなど世界的にも有名。2014年の第31回浜松コンファレンスの講演も行なった。



村山 斉

<浜松コンファレンスについて>

浜松で「新しい文化論」を生み出す場を設けようと、1984年9月に浜松コンファレンス実行委員会が発足しました。同年の第1回開催以来、毎年開催され、第17回からは浜松ホトニクス株式会社が主な出捐者となっている当財団が、光科学技術の普及啓発事業の一環として主催しています。講演では、光技術の応用をはじめ、多分野の研究者が最先端のサイエンスで何が行われているかを分かりやすく解説し、そこから生まれる「新しい文化」について考えを発展させてきました。

<この件に関するお問い合わせ先>

浜松ホトニクス株式会社 広報室 野末 迪隆

〒430-8587 浜松市中区砂山町 325 番地の 6 日本生命浜松駅前ビル

TEL053-452-2141 FAX053-456-7888

携帯電話 080-8262-0374 (17時以降は携帯電話にお願いします)

<浜松コンファレンス / 最近の講演テーマ> * 役職は開催時のもの(敬称略)

回 年	講演テーマ	
35 18	自然科学研究機構分子科学研究所 研究主幹・教授 大森 賢治	量子力学に残された 100 年の謎に 迫る
34 17	株式会社日立製作所 理事 研究開発グループ 技師長 矢野 和男	人工知能はビジネスをどう変えるか
33 16	東京大学宇宙線研究所 所長 東京大学 特別荣誉教授 梶田 隆章	ニュートリノの小さい質量の発見
32 15	自然科学研究機構国立天文台副台長 教授 総合研究大学院大学数物科学研究科天文科学専攻 教授 渡部 潤一	宇宙生命は存在するか -天文学からのアプローチ-
31 14	東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長 特任教授 村山 斉	宇宙に終わりはあるか
30 13	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台長 林 正彦	現代の天文学と宇宙における生命
29 12	東京大学先端科学技術研究センター 生命知能システム分野教授理学博士 神崎 亮平	昆虫パワーの科学 -昆虫からみた脳科学・ロボット・教育の未来-
28 11	東京大学教授宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設長 鈴木 洋一郎	暗黒物質(ダークマター)の探索実験
27 10	宇宙航空研究開発機構(JAXA) 月・惑星探査プログラムグループディレクタ 宇宙科学研究所教授 川口 淳一郎	「はやぶさ」の帰還への 7 年間の 運用と、今後の展望について
26 09	情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所副所長・生命情報・DDBJ研究 センター長 五條堀 孝	眼の起源と進化 ~われわれはどうして光を見る ことができるようになったのか
25 08	国立遺伝学研究所・集団遺伝研究部門教授 斎藤 成也	光と遺伝子 ~宇宙の歴史における生命の歴史
24 07	自然科学研究機構国立天文台教授・次世代超大型望遠鏡プロジェクト長 冢 正則	すばる望遠鏡で探る 137 億年の宇宙史
23 06	大阪市立大学大学院・医学研究科システム神経科学教授 渡辺 恭良	疲労と意欲 ~見えてきたものといまだ見えざるもの
22 05	総合研究大学院大学理事・高等研センター長 菅原 寛孝	光で見た宇宙 ~宇宙は無から創られたか
21 04	名古屋大学大学院理学研究科教授 三田 一郎	物理学者から見た神の神秘
20 03	高知工業高等専門学校長 中井 貞雄	レーザーと未来社会 II 新産業創成
19 02	高エネルギー加速器研究機構・東京大学宇宙線研究所教授 戸塚 洋二	ニュートリノ研究 20 年